

平成28年7月2日

研修報告書

松戸市議会議員
大塚 健児

研修：よりよい男女のパートナーシップ

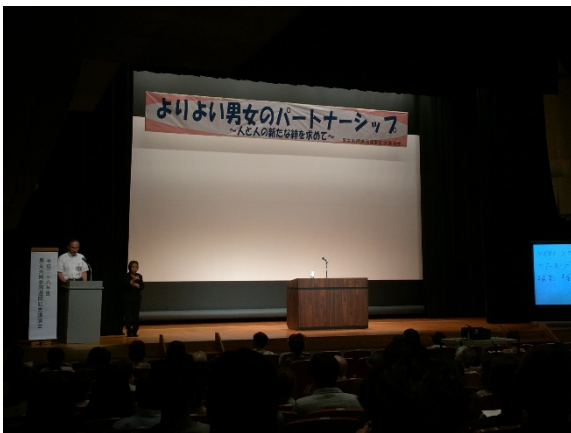
主催：松戸市

日時：平成28年7月2日（土） 14時～15時半

場所：松戸市民劇場

次第：1. 人と人の新たな絆を求めて

【研修報告】



1 今なぜ改めて男女共同参加

国連が誕生して70年。女性差別撤廃条約に批准して30年。

出生率1.57ショックから子ども・子育て支援新制度スタートの年。

2 男女共同参画＝男女平等

国連憲章にうたわれている平等の大切さと差別の禁止。

差別はいけませんが、区別は必要である。

3 今、日本社会は本当に男女共同参画社会を実現できているか？

若い時期は女性に生まれてよかったというけれど、年齢が増すによって、社会への不満を抱く傾向もある。

4 とりわけ近年の「子育て、子育て困難現象」は何を訴えているか

母親たちは『子育て』でなく『孤育て』が現状である。

イクメンパパが流行っているが、妻が期待していることは、おむつを替えてくれることよりも、妻に笑顔を与えることである。

5 人と人との新たな絆を紡ぐために、今、私たちに問われているものは？

税と社会保障の一体改革は今までの医療・介護・年金に子育て支援が加わったことである。

つまり、これからは全世代対象の社会保障が必要不可欠であるとのこと。

そのため、消費増税も考えなければならない……。

【感想】

当然これからの社会、男女に関係なく実力があればだれでも平等に扱われる時代だと思います。これは時代の変化であります。その中で、私は男性・女性は差別をしてはならず、しかし区別は必要だと思います。

男性と女性は生まれながらそれぞれの役割があることも事実です。その役割を無視して、何でもかんでも平等というのは違和感を感じます。

結果、誰もがそれぞれの立場で受けられる社会保障制度設計を目指したいと思いました。

以 上